



学校
だより

トベラの本

葛城市立新庄北小学校
NO. 12
3月 令和4年3月10日
発行者 校長 杉村茂美

春の訪れを感じながら・・・

今年度も、いよいよ最後の月、3月となりました。

3月5日は二十四節気の一つ「啓蟄（けいちつ）」でした。「啓蟄（けいちつ）」とは、「寒さが緩み、冬ごもりしていた虫たちが土の中から這い出て、動き出す」季節を表す言葉で、春の季語にもなっています。日差しも徐々に暖かくなり、新芽が顔を出し、春が近づいていることを肌で感じます。“さあ、みんなで動き出しましょう！！”



3月7日(月)のオンライン全校朝礼の中でも、この話をしました。そして、18日(金)に卒業式を控えた6年生は、学校に登校する日が後10日(今日からだと後6日)、1年生から5年生までのみんなも後13日(今からだと後9日)、本当に残すところ後わずかになったことを改めて共有しました。

また、社会の情勢にも目を向けてほしいとの思いから、ウクライナの様子についても話しました。今この瞬間も、戦車が街を走っていたり、建物が破壊されたり、住み慣れた街から逃げなければいけない人たちがいたり、大切な人のいのちが奪われたり…。連日のように、新聞やテレビで報道されています。そして同時に、世界中の人から支援の手が差し伸べられたり、メッセージが寄せられたりもしています。命や平和について、今だから考えられる（感じる）ことができる）ことがあると思います。



子どもたちの学年によって捉え方は様々だとは思いますが、是非、この機会にご家庭でも話題の一つに加えていただければ幸いです。



学校では、引き続き、感染対策に最善を尽くしながら、今の学級・学年で過ごす日々を大切に、最後のまとめをしっかりとしていきたいと考えています。6年生は、卒業式にむけての準備や練習にも励んでいます。

保護者の皆様には、最後までご理解・ご支援の程、よろしくお願いいたします。

「ありがとう集会」で感謝の気持ちを伝えよう！！

2月25日(金)の1・2時間目に「ありがとう集会」を実施しました。今まで学校を引っ張ってきてくれた6年生に感謝の気持ちを伝えようと計画されている行事です。しかし、このコロナ禍なので、5年生を中心に知恵を絞って実施方法を検討してくれました。そして、今年度は各教室をPCで繋いだリモート開催となりました。教育活動も学級単位を基本としていますので、各学年の出し物も事前に動画編集し、大型テレビを活用して各教室で視聴しました。

まだまだ子どもたちの活動には制限がありますが、創意工夫で互いに感謝の気持ちを伝え合っていました。

〈プログラム〉

- 1年：「げんきいっぱいえがおいっぱい」
- 2年：「6年生にはいっぱいええところあるんやで」
- 3年：ダンス
- 4年：北小レンジャー
- 5年：かみしばい
- 6年：6年間の思い出



プログラミング教育～6年生出前授業の様子

プログラミング教育は、単にコンピュータの仕組みを正しく理解し上手に活用するための方法を学ぶだけでなく、「プログラミング的思考」つまり、「自分の意図する活動（目標・ゴール）を実現するために、どのような手順や方法で活動すればよいか？改善の方法は何か？を論理的に考える力」を育むことを目的としています。

この時間も、目的地に車を動かす（コンピュータに意図した処理をさせる）にはどうすれば良いか？友だちと意見を出し合っ、試行錯誤する姿が見られました。主体的に学ぶからこそ、目標が達成できた時の喜びもひとしおだったようです。

他者と協働しながら、身近な問題を発見・解決しようとする力は、生きるうえでとても大切な力だと考えています。

